



# 学

# 藝

令和5年(2023年)12月 / 第149号

— 特集：支部からの報告、小金井祭 —



令和5年度 第3回支部長会 11月10日(金)



新年祝賀会料理試食会

◇ 巻頭言	理事長あいさつ 「一般社団法人東京学芸大学同窓会」ができてから …理事長 森 富子… 2
	常に前を向いて……………副理事長 稲葉 孝之… 3
	同窓会活動への積極的なご参加を……………副理事長 貝原 俊明… 3
◇ 記念講演	「学校教育における学際的な学びの実現へ向けて～『うけとめる力』を育むために～」(後編)
	……………東京学芸大学 自然科学系 基礎自然科学講座 物理科学分野 准教授 小林 晋平 先生… 4
◇ 支部紹介	千代田区・大田区・豊島区・国分寺市・瑞穂町・新島地区…………… 9
◇ 研究発表のお知らせ	豊島区・北区・青梅市・東大和市……………10
◇ 副校長の活躍	中央区・国立市……………16
◇ 若手教員の活躍	渋谷区・武蔵村山市……………17
◇ 本部だより	……………総務部・会計部・研修部・調査部・広報部・お知らせ…18
◇ 我們的キャンパス	～第71回 小金井祭～……………20



## 「一般社団法人東京学芸大学同窓会」ができてから

理事長 森 富 子

令和五年十一月四日、東京学芸大学創基一五〇周年記念式典とシンポジウムに参加しました。一五〇年の長い歴史の中に自分もいたことをしみじみ感じました。ちょうど開催されていた小金井祭も、昨年より来場者が多く、活気を帯びていました。まずは、母校の一五〇周年を心からお祝いしたいと思います。他の大学は今年度一〇〇周年を迎えているところが多いようですが、東京学芸大学がどうして一五〇年になるかというと、明治六年の小学校講習所となる師範学校の誕生から数えているからです。大学の図書館に「東京学芸大学一五〇年の歩み」が分かる資料が展示されていました。では、私たちの東京学芸大学同窓会は、どのくらい前からあるのでしょうか。調べてみました。

同窓会の「会務要覧」によりまずと、明治一九年に小学校講習所の卒業生が七杉会を結成して、明治二十三年東京師範学校と東京女子師範学校が同窓会をもち、明治二十三年に七杉会を「東京師範学校同窓会」としたとあります。さらに、同年、豊島師範学校が創設され、東京師範学校が東京青山師範学校と改名されました。そして、明治四十五年豊島師範学校卒業生を迎えて「東京府立師範学校同窓会」と改名、その後、東京第一師範学校、第二師範学校、第三師範学校、青山師範学校の同窓会が合流し、大正九年に「社団法人 東京府立師範学校同窓会」となりしました。昭和二十八年三月に東京学芸大学第一回卒業生を迎えるにあたり、「社団法人 東京学芸大学同窓会」と改め、平成二十四年七月の法律の改正に伴い、平成二十五年三月に「一般社団法人 東京学芸大学同窓会」となりました。つまり、師範学校時代から数えれば、同窓会も百年以上、「東京学芸大学同窓会」という名前では、七十年、「一般社団法人 東京学芸大学同窓会」からであれば、結成後十年となります。大学には現在、辟雍会という全国同窓会があります。私たちの「東京学芸大学同窓会」は、東京学芸大学並びに師範学校出身者、東京学芸大学教員・職員であった者で、この同窓会の趣旨に賛同して入会の手続きをした者が会員です。東京都の現職の教員や元教員が中心となっていますが、個人でも団体でも賛助会員になれますので、ぜひ身近で会員になりたい方がいらつしゃいましたらお勧めください。先輩たちが後輩を育て、子供たちのためにこの会を立ち上げた思いは、今も昔も同じであると自負しています。

前からお話をさせていただいている大学への寄附のことですが、元理事長や役員の方々からのご意見を伺い、理事会での承認を経て、会計士と相談の上、今年度中に東京学芸大学に寄附金をお渡しすることとしました。東京学芸大学以外への寄附も考えたのですが、会計士に相談したところ大学以外は難しいことが分かりました。そこで「一般社団法人 東京学芸大学同窓会」の名前をどこかに残すことを条件に寄附金をお渡しします。新年祝賀会の時に学長に目録をお渡しする予定です。

同窓会の事業もお陰様で少しずつ以前の活動に近付いてきています。各支部での集まりからお声がかかるようになりました。各支部や各支部会の活動を応援したいと思います。現在、本部では、新年祝賀会の準備を進めています。今年の一月よりも参加人数を増やすように計画しています。ぜひ、皆様、お声を掛け合って、一月二十一日のお昼の時間にご参集いただき、親睦を深めていただきたいと思います。

次に考えたいことは、現在の東京都の教員不足についての同窓会の役割についてです。東京都並びに全国の小学校の教員不足は、深刻な状態になっています。そこに少しでも同窓会や終身会員の皆様にご協力をいただき、教育の向上に貢献したいと思っています。現在の東京学芸大学の学生も教員を目指して一生懸命に学んでいます。その学生たちのためにも少しでもお役に立つことができる同窓会でありたいように、しっかりと工夫して努力して参ります。どうぞ、これからも よろしくお願いいたします。

## 常に前を向いて

副理事長 稲葉孝之

「日常のありがたさを感じる」  
 「早く日常を取り戻したい」  
 「今は耐えて、復活を目指そう」  
 そう言い続けてきた三年間。暗く不安のコロナ禍をみんなでスクラムを組み、乗り越えて、やっと脱出することができました。

今、テレビで話題の『徳川家康』は、幼少時代に織田や今川の人質として過ごし、三河を治める大名となつてからも武田信玄や一向一揆に苦しめられ、数々の苦杯をなめています。

しかし、耐え忍ぶ経験から多くのことを学んだからこそ、天下を統一できただけでなく、二六〇年余りも続く江戸幕府の礎を築くことができたのでしよう。そして、その知恵が凝縮されている家康の遺訓の一つとして伝わっている言葉があります。

人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず。  
 不自由を常と思えば不足なし。  
 心に望みおこらば困窮したるときを思い出すべし。

堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思え。

この中でも「不自由を常と思えば不足なし」という言葉の意味は、「不自由が当たり前と思えば、不満を覚えることもない」ということになり

ます。  
 コロナ禍で苦しめられた三年間。「不自由を常と思えば不足なし」と視点を変え、徐々に「コロナ前はこうだった」という呪縛から解放されて、「今の状況でできることは何か」を考えられるようになってきたのでしよう。

私たちは、これからも教育に携わる者として、状況に応じて気持ち切り替え、前を向いてしっかりと取りを行うことが大切なのではないでしょうか。

今年、我が母校、東京学芸大学が創基百五十周年を迎えました。それとともに優しく希望の光も差し込んできました。我々同窓会も日常への復活に向けて、知恵と心を結んで、工夫しながら精力的に活動してきました。

学大同窓会は、これからも現状を冷静に読み解き、新しい世の中につながる次の一手を考え、前進していくこうとする会員のみなさんの心のよきところになりたいと思っています。

## 同窓会活動への

### 積極的なご参加を

副理事長 貝原俊明

私が東京学芸大学同窓会の活動を意識し始めたのは教職について十年くらい経った頃だったと思います。それまでは単に、卒業生は年会費を払わねばならないものであり、その会費がどのように使われているのか気にもしていませんでした。また、支部で総会や忘年会が行われるという案内は届いていましたが、管理職などのお偉いさんが参加するもので、若者には関係ないと勝手に思い込んでいました。

二地区目の足立に異動になり、たまたま校長が本学出身だったこともあり、何度か足立支部の忘年会に誘われました。毎回お断りするの失礼と思い、初めて参加してみたのです。すると、確かに年配の方が多く見受けられましたが、みなさんとても優しく、温かく迎え入れてくださいました。さらに恒例で行われていたという学大足立支部ゴルフコンペの話聞き、次回からご一緒させていただくことになりました。当時、まだ若い盛りでしたから、初参加のゴルフコンペではドラコン賞を総取り。おいしい思いをさせてくださいました私は毎回のゴルフ大会が楽しみになりました。先輩方との交流も増えたと同時にA選考受験のお誘いもあり、たくさんの方から励ましを受け

ました。  
 校長選考の際には、同窓会本部研修を受講させていただきました。市の経営研の論文研修では厳しい評価点でしたが、本部の講師からの具体的な書き方の指導もあり、見事合格。同窓会のありがたさを強く感じました。

校長になってしばらく経った頃でしようか、先輩の校長から「貝原、この日は空いているか」と聞かれ、遊びにでも連れて行ってもらえるのかと喜んだのも束の間、「番町小学校に八時」と言われ、そのまま自然と研修部に入ることになりました。以降十年間、研修部で獅子の改定や論文、面接研修のお手伝いをさせていただきました。

この度、副理事長という大役を仰せつかり、その職責の重さをひしひしと感じております。コロナも五類へと移行し、各支部の活動も以前のように再開されているとの報告が上がつています。私が感じた同窓生であることの楽しさやありがたさを、若い人も含め、より多くの方に感じていただきたいと思います。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。私も同窓会活動の活性化に向けて力を尽くしていきたいと思っております。



## 記念講演

# 「学校教育における学際的な学びの実現へ向けて ～『うけとめる力』を育むために～」(後編)

講師：東京学芸大学 自然科学系 基礎自然科学講座

物理学分野 准教授 小林 晋平 先生



## 〔 講師紹介 〕

東京学芸大学 自然科学系 基礎自然科学講座

物理学分野 准教授 小林 晋平 先生

1974年長野県長野市生まれ。理論物理学者。専門は宇宙物理学・素粒子物理学。

現在、東京学芸大学教育学部准教授（自然科学系 基礎科学講座 物理学分野所属）。理科教員高度支援センター、教育インキュベーションセンター、先端教育人材育成推進機構（兼任）。慶應義塾大学自然科学研究教育センター協力研究員。京都大学理学部卒。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博士（人間・環境学）。東京大学ビッグバン宇宙国際研究センター研究員，日本学術振興会海外特別研究員（カナダ・ウォータールー大学，パリメーター理論物理学研究所），国立群馬工業高等専門学校准教授を経て，現職。（小林晋平先生HPから）



【一四八号からの続き】

現状を踏まえて 我々はどこを指すか

腐敗していくことを何とか打破するためにしなければならぬことは、まず学際的事であること、そして文脈があることです。さらに、ジェンダーバイアスがないこと、最後に、享受能力を育てるものであること、これが突破の鍵になるのではないかと考えています。

まず、学際的事であることを、先ほどの振り子の例で説明します。振り子の長さだけで周期が決まるという等時性を小学校五年生の理科で学ぶ意義は、条件制御にあります。振り子の特徴づける要素には振り子の長さ、おもりの質量、最初に振り始める角度がありますが、これら三つを同時に動かしたら、何が原因で周期が決まっているのかが分からなくなります。角度と質量は一定にして長さだけ変えたらどうなるか測ってみようと、問題を分解して考えようということです。教材としてとても優れています。しかも、子供たちがやっても結構いい値が出るので、いい実験として採用されているのです。

ただ、そのためにだけに振り子を考えているわけではありません。ここを掘り下げると学際的な学びになります。振り子がなぜ重要なのか、その理由はいくつもありますが、例えば人類にとって振り子は時計になるという重要な意味があります。振り子が発明される前までは日時計とか水時計でした。やはりちゃんとした共通の時計がほしいと思っていたところに振り子です。振り子の長さがだいたい二十五センチなら周期はほぼ一秒です。長さ二十五センチの振り子を作ってみると、一秒を万国共通で納得できるわけです。これで世界共通の尺度ができたのです。

秦の始皇帝も共通の尺度をつくった人です。始皇帝は、度量衡、貨幣の統一、文字の統一、それから馬車の軌道の統一もしました。その軌道の統一によって流通がスムーズにできるようになりました。それから言葉や貨幣が統一されたことによって経済が活発になりました。馬車の軌道の規格化は、言うなれば現代におけるコンテナです。コンテナという統一規格の発明によってスムーズに物流が動くようになりました。米俵

もそうです。米俵の規格が統一されたのは明治時代に入ってからです。実は社会科においても「共通の尺度」という観点で振り子と共通するテーマがあるのです。

ほかにも美術や言語学とつなげることができます。ブリュッゲルが描いたバベルの塔という絵があり、バベルの塔は旧約聖書に出てくる話です。人間がこの塔をどんどん高く作って神の世界に向かって登っていく。すると、神がそれを見て何と傲慢だと言って塔を壊します。人間がこのように傲慢なことをするのは、共通の言語で喋っているからだと言って、言葉をバラバラにします。その結果、意思疎通が図れなくなつて戦争が始まったという話が旧約聖書の中にあります。「共通の尺度」というつながりで、言語や美術の話に飛ぶこともできるわけです。

ここまでは何か共通の尺度、振り子の時計みたいなものができたらいいという話でしたが、逆の展開もあり得ます。

皆さんは「富士山」と言われたら、どのような富士山を思い描きますか。私は台形の富士山を想像するのですが、鳥瞰図の富士山を思い描

く方もいるそうです。パイロットなど上空からいつも見ている方などもそうかもしれませんが、目の不自由な方も鳥瞰図の富士山を想像されるのだそうです。なぜならば、目の不自由な方は手で触って模型で富士山を教えられるからです。台形の富士山と鳥瞰図の富士山、どちらが正しい富士山かと言われてもこれは答えられませんね。どちらも正しい富士山です。振り子から、「共通の尺度は、果たして本当に人類を幸せにするのだろうか」という授業を展開することもできるわけです。

共通の尺度は必要か

富士山の話は、東工大未来の人類研究センターのセンター長の伊藤亜紗さんが書かれた本『目の見えない人は世界をどう見ているのか』に出てくるエピソードです。私たち教育者は、どのような話でも拾ってあげないといけません。話し合いのファシリテーションの技術を学ぶ授業もあるのですけれども、結局、技術だけではどうしても足りなく、基礎知識がたくさんあって、懐が広く、どのような話題が出てきても、「面白そうだね」と拾える人でないと話し

合いが盛り上がりません。生徒が場違いなことを言っても、「それは重要かもしれないぞ」と言える先生かどうかということ。そのためには、相当に勉強しておかなければいけないと思います。

次に「文脈があること」について説明します。私の専門である相対性理論の話为例として取り上げます。

いきなりですが、こんな話から始めましょう。皆さんは「あなたのお宅のお雑煮はどのようですか」と尋ねられたらどう答えますか？実は、この質問をすると、「普通です」と答える人が多いのです。ところが「全国お雑煮マップ」なるものがあって、これを見ると、丸餅を煮る・焼く、角餅を煮る・焼く・あげる、花びら餅を焼く、さらにはもちなしっていうバリエーションまであります。「普通」といつてもそれは個人の思い込みに過ぎなくて、さまざまなんです。私は長野市の出身なのですが、長野を出るまで方言だと気づいていなかった言葉がたくさんありました。例えば長野弁で「ヘラ」は舌のことです。長野の人が東京の病院で「したを出してください」と言われてズボンを脱いだという話があり

ます(笑)。「まる」は排泄するという意味です。他にも、「ちよんこづく」が「調子に乗る」です。「水くれ」とは「水やり」です。やる気がない者とか怠け者のことを「お前づくねえな」と言います。「づく」は他の言葉に置き換えようのない、独特の言葉です。

『全国アホ・バカ分布図』というおもしろい本があります。関西に「探偵ナイトスクープ」という人気番組がありまして、そこで放送されたある回が本になったものです。その回では、地方によって「アホ」と「バカ」という言葉の使われ方の地域による境はどこなのかを調べました。東京から出発して、名古屋あたりで切り替わるかなと思ったら、名古屋あたりで「たわけ」という言葉が使われることがわかったのです。そこで日本全国からデータを収集したら、「アホ」「バカ」「たわけ」と言った言葉を使う地域が同心円状に広がっていたのです。アホの分布圏がここにあって、バカがこの辺りと同心円状に広がっていたのです。実は同じことをその昔、民俗学者の柳田邦男がカタツムリで調べていました。カタツムリを京都近辺ではデデ

ムシと言います。その外側ではマイマイ、カタツムリ、ツムリ、ナメクジというように広がっています。これは昔、都で言葉が生まれて、だんだん広がっていったからに違いないという説を出しました。方言圏論といえます。

このことがどうして相対性理論に関係しているかというと、誰もが方言を使っています。でも、その地域から出るまでは、自分が方言を使っていることに気づきません。つまりコミュニケーションが小さいと気づきません。このことが一般相対性理論に関係しています。そして、標準語を知る機会がないことが特殊相対性理論に関係しているのです。

標準語とは、いわば絶対的な基準です。宇宙にも絶対的な基準があります。それは光の速さが一定であることです。光の速さは秒速三〇万キロです。さて、ここで簡単な問題です。時速六〇キロの車を時速四〇キロで追いかけると、前の車は時速何キロに見えるでしょうか。答えは、時速二十キロと言いたくありませんが、実は正確にはそうではありません。次に時速六〇キロの車から時速四〇キロでボールを投げます。合

計何キロになるでしょうか。答えは一〇〇キロと言いたくありませんが、やはり正確にはそうではありません。今度は光の速さで飛んでいるロケットから光を放射します。合計して光の速さはどれだけになるでしょう。秒速三〇万キロで飛んでいるロケットの上から秒速三〇万キロの光を飛ばすということは合計すれば六〇万キロと言いたくありませんが、やはりはそうではありません。秒速三〇万キロのままなのです。どういふことでしょうか？これが相対性理論の世界なのです。

**考えてみれば足し方はひとつではない**

今は速度の足し算を考えていますが、ひと口に足し算といってもいろいろな足し算があります。例えば「一つの物体に一〇と一〇の力を二人で加えました。合計いくつですか」と言われても、答えられません。なぜなら同じ方向に二人が引っ張れば合計二〇です。反対方向に引っ張れば打ち消しあってゼロで、互いに直交する方向に引っ張ったら、斜め四十五度の方向に合成されます。また、二人の人間が協力したら二倍の

早さになるのかと言うとそうでもありません。ちなみに私には双子の息子がいますが、双子の子育てのしんどさは二倍以上です（笑）。

相対性理論における速度の計算には、私たちが小中高校で教わるニュートン力学での計算とは異なり、いろいろなファクターがついています。その計算に従うと、光速 $c$ と光速 $c$ を合わせているにも関わらず答えが光速 $c$ のままになることもあることが分かります。つまり、光の速さで飛ぶ物体から光を発しても、地上から見るとき、やはり光の速さは変わらないという結論が出てきます。

ではなぜ私たちがそれに気づかず、ニュートン力学での速度の合成則を信じているかというと、光の速さが秒速三〇万キロという桁違いな速さだからです。私たちが日常で経験するような速さでは光の速さより圧倒的に遅く、その場合に速度の合成を計算すると、近似的にニュートン力学で計算した値が得られるのです。光が速すぎて、その世界は誰も実感できないので、十九世紀まではそういうことが分かりませんでした。二十世紀に入り、観測や実験技

術の発展に伴って、相対性理論の世界が検証できるようになったのです。ちょうど、田舎から出てみたら自分の言葉が方言だったことがわかるように、私たちが日常経験から推測していた速度の合成則は、光よりも非常に遅い速さで動くものにしかなり立たない「方言」だったのです。

こうして速さに対する概念を壊したということは、距離や時間に対しても、改めて考える必要に迫られます。具体的には、人それぞれで、時間の進み方についても変わることが分かります。例えば、あるロケットに乗って光の速さに近い高速で飛ぶとします。ロケットに乗って長い間旅して帰ってくると、あまり年をとっていないというウラシマ効果という話も有名です。そういうことが実際に起きるのだということも実験では分かっています。

さて皆さん、ここで自分の額にひらがなの「し」を書いてください。そう言われたら、自分から見た「し」を書くのか、人から見た「し」を書くべきなのか一瞬間んだかと思えます。このように、自分が世界とどう関係しているかを考えること、すなわち自分を世界の中に埋め込むこと

を相対化と言います。普段私たちは自分の立場を相対化してあまり考えません。例えば、私たちが止まって乗っている地球はとんでもない速さで自転していますが、それを意識することはなく、自分は止まっていると思っています。自転の速さは赤道の近くだと時速一七〇〇キロくらいですがそれを感じることはありません。さらに、地球は太陽の周りをも

のすごい速さで公転しています。秒速三〇キロです。さらに、太陽系は銀河の中で回っています。そして、銀河も宇宙の中で動いているので、私たちはめちゃくちゃ速く動いているのです。ただそういうことは、外から見ないと気がつかないのです。世の中には止まっているものはありません。すべて相対的ですが、私たちはそれに気づかないのです。

#### 時間とは何か

時間も実は相対的です。時間の本質は何かという話をするのが私の相対性理論の授業ですが、時間すら絶対的ではないのです。ちなみにこの「相対性」というテーマは学際的で、中国の古典に飛ぶことができ、孟子の胡蝶の夢という話があり

ます。胡蝶の夢は、ある男が昼寝をした。そして、自分が蝶になって寝ている自分を上から見ている夢を見た。目が覚めた時にこれが現実なのか、それとも先ほど上から見ていた方が現実なのかという話です。あの話には続きがあつて、結論はどっちでもいいなのです。すべては相対的であつて、どこにも絶対的なものは存在しないという逸話なのです。

#### ジェンダーバイアスを気をつけること

もう一つ、ジェンダーの話もします。OECD加盟国の中で、圧倒的に日本は理系の女性が少ないのです。東大の数物連携宇宙研究機構の副機構長の横山広美さんがそれを調べました。横山さんの研究によると、「女性は知的である方が良いと思えますか」という質問に対し、「女性は知的でない方が良いと思う」と答えた人たちが一定の割合でいたのです。特に男性に多く、そう答える男性には、数学は男性がやる学問で、女性は苦手な学問であるという思い込みがあることがわかったのです。つまり、理系の女性が少ないことと女性は知的でない方がよいと思つて



いる男性がいることは密接にリンクします。自分よりも賢い女性がいると自分のメンツが立たないと思ってる男性が多いということが、この国の理系に女性が少ない一番の理由です。このことは残念ながら日本特有です。本当に由々しき事態で、このように考えているうちは、国際化は絶対に無理です。こうした発想をいい加減改めると強く言いたいと思います。

**教育がすべてを解決するわけではない**

享受能力を育てることの重要性もすでに述べました。次世代の教育に期待して、起業家を育てるような教育がよいのではないかというようなことを言っていますが、この本（神代健彦著『生存（サバイバル）教育への抵抗』）の帯にあるように、クラス全員を小さな起業家に育てることに「正気ですか？」と私も言いたいのです。イノベーターばかりがもてはやされるような世の中には警鐘を鳴らす必要があります。私は物理についてはイノベーターですが、誰かがそのイノベーションを受け止めてくれなければ経済も何も回りませ

ん。そして私は、物理以外のことに関しては誰かがやってくれたイノベーションを受け止める側の人間です。何らかのことはイノベーターであっても、それ以外のことについてはイノベーションを受け止める側の存在であることは誰にとっても同様ですが、受け止める力を育てる教育があまりにも少ないのです。よく言われるように、物理の授業の目的は物理学者を育てることではありません。もちろん結果としてそうなることはあるかもしれませんが、それ以上に大切なことは物理に理解がある人たちが生み出すことだと思います。イノベーターなことをする人だけがすごいとなってしまうことは気をつけたいといけません。そう考えると、新しい教育の形が見えてきます。科学を理解している人を育てることも重要なのです。だから享受する力を育み、学びの裾野を広げたいと思います。

プラトンのアカデミアの入口には「幾何学を学ばざる者、この門より入るべからず」と書いてありました。私がいたカナダの研究所の入口には、これをもじって「数学に興味のある者、誰でもこの門より入れ」と

書いてありました。学校はこっちははずです。

私たち日本人は「人に迷惑をかけるように生きなさい」よくと言います。でも、インドでは、「人に迷惑をかけないで生きていくことは不可能なのだから、人から受ける迷惑に寛容になりなさい」と教えるのだそうです。人に迷惑をかけないで生きていくことは無理です。迷惑をかけるように生きていくのだから他の人の迷惑だつて受けないよ言うのではなく、むしろ私たちに必要なのは許すことです。

私は入門セミナーで、何のために学んでいるのかという話を最後にします。これは私がこの大学に勤め出した四月の最初にブログに書いた文章です。

「子供たちに、自分がいかにたくさん選択肢をもっていて、世界は広くて、自分は自由なのかを見せてあげられる教師になってほしい。そのためには先生自身が様々なものから自由でなければならぬ。その時にこそ学問が必要になる。学問が生きてくるはずだ。それを伝えるのが僕の役目だ。そして、もう一つ、僕はやむを得ない理由で選択肢をもて

なくなっている世界中の多くの子供たちのために動こうと思う。難しいかどうか、できるかできないか、そのようなことは考えるだけ時間の無駄」です。

学芸大の学生には、さらに「学ぶことは一つの道を先鋭化させることではなく、突き抜けたその先に私たちは誰にも縛られてないなかつたと気づかされることなのだ、だから、君らはこの大学にいる間に、自らの学びを極めて、自由であることもしっかり体験して卒業してほしい」と言っています。そして「君たち、そして子供たちの未来のために、自分の思い込みは一旦置いて、あらゆる学問とつながり直して世界を面白がる方法を身につけて社会に出ていってほしい」と伝えて、いつも終わりにしています。ということ、今日もここまでにしたいと思えます。ありがとうございます。

## 千代田区の紹介

千代田区には、区立幼稚園・こども園八園、区立小学校八校、区立中学校・中等教育学校三校があります。幼稚園・こども園にはおよそ五百五十人の幼児が、小学校にはおよそ三千三百人の児童が、中学校・中等教育学校にはおよそ千二百人の生徒が在籍し、各校園にて特色ある教育活動を展開しています。

千代田区では、〇歳から十八歳までを見通した次世代育成支援及び教育振興の基本方針となる千代田区共育大綱（千代田区共育ビジョン）を策定し、次の五つの基本的方向性に従い、目標設定をしています。

- ①家庭と地域、学校園の共育力向上
- ②人権尊重の精神、豊かな人間性、思いやりの心の育成
- ③学校園を楽しみ学びの場とする
- ④社会を生き抜く力の定着
- ⑤伝統文化の尊重と新たな文化の創造

今回は、千代田区の教育の特色と語る、二つの具体例を紹介します。

### 【保幼小合同研修会】

千代田区では区立幼稚園・こども園と小学校が同じ敷地内に設置されており、保幼小の連携を強く意識した教育活動を行っています。この八校八園体

千代田支部長 傳田 学

(千代田区立番町小学校)

制を堅持しつつ、質の高い初等教育の維持・向上を目指し、毎年、麹町地区と神田地区の一校園ずつにおいて保幼小合同研修会を開催しています。研修会では、近隣の保育所、幼稚園、小学校の教員がグループとなり、地域で育てる子どものイメージを共有するための協議を活発に行っています。

### 【特色ある教育活動プレゼン】

十月には、学校園が次年度の特徴ある教育活動の予算を獲得するため、教育委員会へのプレゼンを行います。このことにより学校園独自の取組が生まれ、「子どもが通いたい」「保護者が通わせたい」「地域が支えてくれる」学校園の実現が可能となります。番町小では、「番町STEAM教育プロジェクト」を令和五年度から開始し、自然科学、ものづくり、プログラミング学習など、理数教育を核とした教育活動に取り組んでいます。



一人一台タブレットとドローンを活用した、プログラミング学習の様子（番町小5年生）

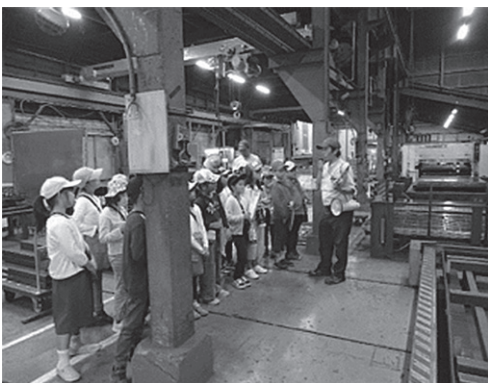
## 大田区の紹介

大田支部長 窪寺 雄一郎

(大田区立入新井第四小学校)

大田区は、昭和二十二年（一九四七年）に、当時の「大森区」と「蒲田区」が一緒になって誕生しました。東は東京湾に面し、南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市と隣接しています。武蔵野台地の先端に位置していることから、昔から人が住みやすく交通の要路でもあったため、区内には大森貝塚、多摩川台古墳群、池上本門寺五重塔など多くの史跡が点在しています。また、関東大震災後住宅化が進み、田園調布、久が原など比較的緑の多い落ち着いた住宅地になっています。海沿いでは昭和の中頃まで海苔の養殖が盛んに行われていましたが、埋め立てによって海苔産業は終焉を迎えました。その後は日本の空の玄関口である羽田空港をはじめトラクタターミナルや埠頭、大田市場など物流施設のほか、住宅や工場が密集する商業・工業地帯が形成されました。また、野鳥公園やスポーツ施設、今年度には、「先端」と「文化」を町のコア産業として、商業・オフィスをはじめ多くの特格的な機能を内包した大規模複合施設「羽田イノベーションシオシティ」が完成するなど、都市機能施設が整備されています。

区立学校は、小学校五十九校、中学校二十八校、千葉県館山市に寄宿舎併設の「館山さざなみ学校」があります。大田区には世界に誇る技術をもつ町工場がたくさんあります。その特色をいかし、子どもたちの未来を創る力を育むことを目標とした区独自教科「おわたの未来づくり」科を小学校五・六年で令和七年度から実施します。これは、地域にある「豊かな自然」と歴史」「貴重な文化」「世界に誇る高い技術力」等の多様な特色を教育資源として、最大限にいかし、企業・大学・事業所等と連携して、地域社会や生活を見直し、よりよくするためのイノベーションを起すものや仕組みを創出する学習です。



町工場の見学



## 豊島区の紹介

豊島区には、幼稚園三園、小学校二十二校、中学校八校があります。支部の会員は六十五名で、管理職は十七名です。九月には、令和元年度以来久しぶりに、本部長理事 森 富子先生、本部幹事 白木 信子先生、そして令和二年度から四年度に会を去られた管理職の先生方をお招きして、豊島支部懇親会を開催することができました。

豊島区は、平成二十六年に、民間組織から東京二十三区の中で唯一の「消滅可能性都市（平成五十二年にかけ、二十～三十九歳の女性が五十%以上減少すると推計された自治体）」の指摘を受けました。そこから「子どもと女性にやさしいまちづくり」他四つの対策を柱に施策を展開してきました。その結果、平成二十六年の児童数約七千三百人名から、今年度は約九千三百名に増加しています。この間、「国際アート・カルチャー都市」として、公と民が一体となり、地域への誇りと愛着を醸成してきました。子供たちは現在、緑豊かな公園や、漫画界の巨匠が集ったアパートを再現した「トキワ荘」を学習や生活に活用しています。

さらに、令和二年度には「SDGs 未来都市及び自治体SDGsモデル事業」に選定されました。それを受け、幼小・中各園・校では「SDGs 達成の

豊島支部長 北澤 弘幸

(豊島区立巣鴨小学校)

担い手育成」に取り組んでいます。子供たちがSDGsの主旨を学び、自分のこととして捉え、植物の育成、4R、伝統的な踊り・太鼓、地域防災、国際理解など、地域や学校の環境、伝統、文化を生かした活動を、保護者・地域の御協力をいただきながら主体的に発信しています。これらの活動により、保護者・地域と共にSDGsに取り組む輪が広がり、地域とのつながりが更に深まっています。子供たちの地域への誇りと愛着も増えています。

今後も各園・校が子供たち一人一人を大切に、心豊かな子供たちを育てるとともに、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを進めていきます。



「東京大塚阿波踊り」  
に参加する小学生

## 国分寺市の紹介

国分寺市は、東京都のほぼ中央に位置し、武蔵野の面影を残す緑豊かな地域です。市の名前の由来となっている武蔵国分寺跡は令和四年に国の史跡指定を受けてからちょうど百年目となり、市を挙げて様々な催しが行われました。なかでも「こくぶんじジュニア歴史検定」は歴史好きの子どもたちに好評でした。武蔵国分寺跡を活用した体験型の学習活動にも力を入れていきます。六年生を中心とする文化財課の学芸員が講師となり、現地での学習活動を行っています。こうした中で、ふるさと国分寺の次代を担う子どもたちが、より地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、地域に貢献することを目的とした「国分寺学」を全小中学校の教育課程に位置付ける取組を行っています。

国分寺市は人権の町でもあります。一昨年の十二月「すべての人を大切にするまち宣言」を制定し、互いの立場や意見を認め、助け合い、すべての人が大切にされるコミュニティを創ることを目指しています。毎年十一月上旬の市教育委員会が開催する「国分寺市教育7デイズ」の期間中に行われる「いじめ防止児童会・生徒会フォーラム」では、市内小中学校の児童会・生徒会の代表が集まり、いじめをなくすため

国分寺支部 矢島 英明

(国分寺市立第八小学校)

にはどうするか、また「すべての人を大切にするまち宣言」を各校でどう具現化するかを話し合っています。現在市内には、小学校が十校、中学校が五校あります。学芸大学のお藤元ということもあり、教職大学院や学部生の教育実習を積極的に受け入れています。また、数多くの学生ボランティアが教育活動の支援を行ってくれており、まさにウィン・ウィンの関係が構築されています。

令和七年度を目前に市内すべての公立小中学校がコミュニティ・スクールとなります。これからも国分寺市は地域と連携した教育を展開していきます。



武蔵国分寺跡



## 瑞穂町の紹介

瑞穂町には、小学校が五校、中学校が二校あります。

小中学校ともに小規模ですが、六道山があったり、狭山池があったりと自然豊かな地域となっています。

瑞穂町教育委員会では、次代の担い手としての子供たちのよりよい成長を目指して、平成二十九年より地域に根差した教育を、「ふるさと学習『みずほ学』」として、全ての小中学校で総合的な学習の時間を中心に行っています。子供たちが夢や希望をもって自立的に未来を切り開いていくために、「ふるさと瑞穂」の自然や文化を愛し、社会に貢献できるように育成しています。本校でも保護者・地域人材によるゲストティーチャーを呼んで学習が盛んに行われています。

第六学年では平和教育の一環として町内にお住いの戦争経験者の方から戦時中の西多摩地区の様子を聞いたり、どのような生活を送っていたかを聞いたりします。町の資料館に現存している当時の写真、中学校での訓練の様子や現在も残されている六道山の防空壕などの紹介も踏まえながら聞くため、戦争を身近に感じることが出来ます。

また「みずほ学」の中でも特別に「そら学」と名付けて、町内にある株式会社IHIと連携して宇宙に関する学習

瑞穂町支部長 蒲生友作

(瑞穂町立瑞穂第三小学校)

にも取り組んでいます。IHIからゲストティーチャーを呼んで、宇宙から見た地球について学びます。また地球人の一人として、日本に住んでいる人や世界に住んでいる人とならうという学習にも取り組んでいます。今年度は南アフリカのヨハネスブルク日本人学校の子供たちと連携した学習をしました。ヨハネスブルク校の子供たちが作った上の句に瑞穂町の子供たちが下の句を考えて、短歌を作成しました。作成した短歌はデータにして、記憶媒体に移し、来年度打ち上げ予定の日3ロケットに乗せて、打ち上げる予定です。



みずほ学

「よりよい地球人となるために」

## 新島地区の紹介

新島地区は、伊豆諸島のうち利島村、新島村(新島・式根島)、神津島村の三村四島からなる地区です。それぞれの島に小・中学校が1校ずつありますが、利島は小中学校、式根島は式根島学園として小中一貫校の扱いです。小学校には児童二百五十名、中学生には生徒九十四名が在籍しています。小学校では村を越えての交流はありませんが、中学校では毎年四島が集まってスポーツを通じた交流を行っています。

島しょ地区共通の一番の悩みは、児童・生徒数の減少です。特に規模の小さい利島や式根島では、児童生徒一人名の増減が学年存続の命運を分けることとなります。そしてこのことは、学びの上では大きなメリットにもデメリットにもなり得ます。少人数ならではの個に応じた指導が行いやすい反面、多様な価値観や考えに触れる機会が、やはり少なくなってしまうがちです。それらを補うためにも、今後さらに一人一台端末のより積極的かつ効果的な活用が求められています。

コロナ禍によって一気に配備が進んだタブレット端末ですが、まだまだ十分な活用が図られているとは言い難いのが現状です。

新島支部長 荒木憲秀

(新島村立新島小学校)

東京都は、島しょDX推進事業として様々な事業を展開しています。こうした事業も活用しながら、より効果的な活用を通じて深い学びにつなげられるよう、それぞれの村で創意工夫を重ねています。

大島出張所管内である新島地区では、教職員も自治体を越えた連携ができるよう、大島地区と新島地区とで情報が共有できるような仕組みも、現在構築している最中です。

また、島しょ地区は内地よりも地域とのつながりが密接であることが大きな特徴の一つです。それぞれの島における島民の思いや願いを大切にしながら、各教科の学習や生活科・総合的な学習の時間などにおいて、地域を題材とした学習を推進し、地域の人材や諸団体等の教育資源を有効に活用し、ふるさと学習の推進を図っています。



中学生が地域と協働して作成したパンフレット

令和4・5年度 東京都教育委員会 体育健康教育推進校  
 令和5年度 文部科学省教育課程実践検証協力校（保健領域）

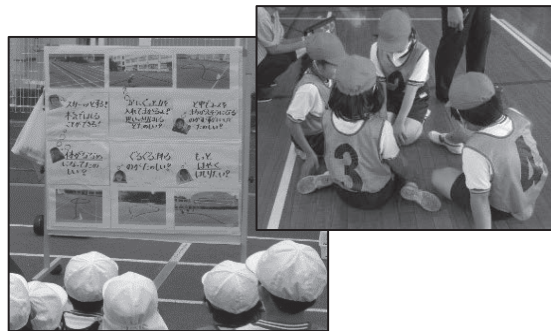
**【研究主題】**  
**「運動や健康についての自己の課題を見つけ、  
 すすんで解決しようとする児童の育成」**

本校は、令和4・5年度 東京都教育委員会体育健康教育推進校として、研究主題「運動や健康についての自己の課題を見つけ、すすんで解決しようとする児童の育成」を目指し、体力向上を図るための授業改善や環境改善に取り組んでまいりました。

令和4年度は、学習指導要領の基本的な考え方を踏まえ、体育科の「**体づくり運動系**」「**保健領域**」を中心とした授業実践ならびに運動の日常化などに取り組みました。2年目となる令和5年度には、体育科の「**器械運動系**」「**陸上運動系**」「**水泳運動系**」「**ボール運動系**」など領域を広げた授業研究、「**食育**」の授業実践も行いました。2年間の研究を通じ、**全校で取り組む目の運動「アイアイ体操」**や**口腔の機能運動「あいうべ体操」**など日々継続してきた取組にも成果が見られるようになりました。

本研究では、令和4・5年度と2年間にわたって、文部科学省 初等中等教育局 健康教育食育課 健康教育調査官 横嶋 剛 先生、元東京都小学校体育研究会会長 矢部 崇 先生、東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事 升屋 友和 先生、埼玉学園大学人間学部子ども発達科 非常勤講師 鈴木 健一 先生をはじめ、多くの先生方からご指導いただき、教職員が協働で**運動の日常化、健康教育の推進、体育科の授業改善**に取り組んできました。

授業実践を重ねる中で、児童が主体的に自分の心と体に向き合い、他者と協力しながら、自ら課題解決しようと取り組む姿が見られるようになりました。限られた時間の中で議論を重ね、切磋琢磨しながら研究に取り組む教職員の努力の成果が児童の姿として現れているのだと確信しています。



**講師**

国立教育政策研究所 教育課程研究センター教育課程調査官  
 文部科学省 初等中等教育局 健康教育課 健康調査官  
 スポーツ庁政策課 教科調査官 **横嶋 剛 先生**

前東村山市立八坂小学校校長  
 元東京都小学校体育研究会会長 **矢部 崇 先生**

**研究発表会 令和6年2月16日（金）**

13:00~	13:15~	13:30~	14:45~	15:00~	15:30~	16:30~
受付	仰高健康タイム	授業公開	挨拶	研究発表	パネルディスカッション	謝辞

**豊島区立仰高小学校**  
 〒170-0003 豊島区駒込 5-1-19  
 校長 稲垣 昌弘



豊かに学び  
 美しい心と才能を磨き  
 共に明日を創っていく  
 進め登れ遠く高く

令和4.5年度 東京都教育委員会体育健康教育推進校

令和5年度 東京都小学校体育研究会研究協力校

大テーマ「健やかな心と体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育の推進」

研究主題 「児童一人一人が課題を見つけ、主体的な学びを実現する体育学習」

～「できた」喜びを味わえる授業づくりを通して～

令和6年2月22日（木） 研究発表

北区立滝野川第五小学校 校長 高草木政浩

### 体育健康教育推進校の取組の概要

- (1) 一人一台端末を活用した課題解決に向けた授業改善及び個別最適な学びを保証する指導方法の開発
- (2) 多様な運動機会の創出
- (3) 健康的な生活習慣の定着を図る取組の開発
- (4) 外部人材等との連携した指導方法の開発
- (5) 教科横断的な視点や校種間の連携等を踏まえた指導方法の開発
- (6) その他、課題に応じた研究・開発

### 「できた」喜びを味わわせるための手立て

- ・学習過程の工夫
- ・児童の学習状況に応じた言葉掛けの充実
- ・評価方法の工夫
- ・学習活動に応じた ICT 機器、ICT 教材の活用



健康教育推進プロジェクトロゴマーク



本校は、令和四年度から東京都教育委員会体育健康教育推進校として体力向上、食育、健康安全の三つを柱に健康教育に取り組んできました。健康教育を推進することにより、児童が自分の心身の健康に関心をもち、自らすすんで体力向上、健康の保持増進のための活動に取り組み、生涯に渡って、心も体も健康な生活を送ろうとする素地を養うことを目指しています。

また、東京都小学校体育研究会研究協力校として、体育科の授業改善、指導力向上を目指し、研究授業、実技研修を重ねてきました。はじめの一歩として、体育科の基礎基本を学ぶ校内研修を行い、令和四年度に体育科における滝五スタンダードを確立し、今年度は全学級で研究授業を計画し、体育授業の充実を図ってきました。

研究の成果を二月二十二日に発表いたします。多くの皆様にご参観いただき、ご指導賜りますようお願いいたします。

※令和5年度 東京都小学校体育研究会 研究発表大会(区部)の研究協力校として  
授業公開と研究発表を行う。

#### <公開授業>

13:10 ~ 13:30 滝五タイム(体育的活動)

13:40 ~ 14:25 公開授業 2年2組 多様な動きをつくる運動遊び(なわ): 体育館

3年2組 保健「健康な生活」(食育): 教室

5年2組 陸上「ハードル走」: 校庭

6年1組 保健「病気の予防」: 教室

6年2組 ボール運動「ゴール型」(ハンドボール): 校庭

15:00 ~ 15:15 研究発表

※以下 ~ 16:40 東京都小学校体育研究会 研究発表大会



令和4・5年度 青梅市教育委員会研究指定校

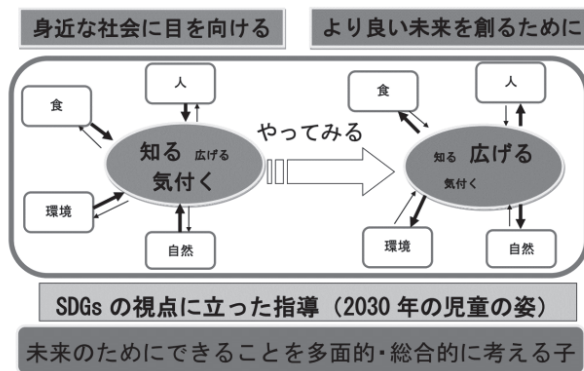
**「身近な社会に目を向け、  
より良い未来を創る児童の育成」  
～SDGsの視点に立った指導を通して～**



本校は令和4・5年度青梅市教育委員会研究指定校の指定を受け、自分たちを取り囲む社会や自然、人と人との関わりなど身近な社会の課題に目を向け、自分事として課題解決に取り組む児童を目指して、実践研究を重ねることといたしました。そこで、研究主題を『身近な社会に目を向け、より良い未来を創る児童の育成

～SDGsの視点に立った指導を通して～』として研究を進めてまいりました。

「SDGsとは何か。」を全教職員で学ぶところからの研究のスタートでした。様々な教科を通して、SDGsの視点に立った学びの実践・研究を重ねてきました。その中で、多面的・総合的に考える力が高まるなどの子供たちの成長を見ることができました。これらの2年間にわたる研究の成果を研究発表会として発表いたします。まだまだ十分な成果を上げたとは言いがたいですが、ぜひご参加いただき、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



**研究発表会 令和6年1月25日(木) 13:30～**  
**公開授業・研究発表**  
**講演 学習院大学 特任教授 栗原 清 先生**

**青梅市立第一小学校 校長 鎌田 博志**

青梅市本町223 TEL0428-22-7261 JR青梅線 青梅駅徒歩8分

## 令和4・5年度 東京都教育委員会安全教育推進校

### 安全教育研究テーマ

『危険を予測し回避する能力・他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成』  
～児童の日常生活での事件・事故の未然防止に向けて～

東大和市立第十小学校 校長 澤崎 彰一

子供が心身ともに健やかに育つことは、全ての人々の願いです。子供の育つ環境が安全なものとして整えられ、また、全ての人々が安全な生活を送ることができるような社会を築いていく必要があります。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大やスマートフォン及びSNSの普及等により、児童・生徒等を取り巻く安全に関する環境の変化が余儀なくされる中、近年の自然災害をはじめ、犯罪や事故等から児童・生徒等の命を守るための対策が喫緊の課題となっています。このような中、各学校においては、子供たちに自他の生命尊重の理念を基盤として、生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培うとともに、すすんで安全で安心な社会づくりに貢献することができる資質・能力を育てていくことが、ますます重要となっています。（東京都教育委員会「安全教育プログラム」より）



十小キャラクター  
ファイヤーくん

本校は、昨年度からの2年間、東京都教育委員会の安全教育推進校として、安全教育を推進してきました。安全教育が対象とする領域は、「生活安全（日常生活で起こる事件・事故とその対処）」「交通安全（様々な交通場面における危険と安全）」「災害安全（様々な災害発生時における危険とその対処）」から構成されます。その中から、本校は、「生活安全」を研究領域とすることとなりました。実現を目指す生活安全として、下の6つの項目を挙げ、研究を進めてきました。

研究の成果を、令和6年2月22日（木）に発表します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

### 実現を目指す「6つの生活安全」

<p><b>登下校時の安全</b> 登下校時に遭遇する犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにする。</p>	<p><b>校内での安全</b> 校内で起こる事故等の危険について理解し、安全に行動できるようにする。</p>	<p><b>家庭生活での安全</b> 家庭で起こる事故等の危険について理解し、安全に行動できるようにする。</p>
<p><b>地域・社会生活での安全</b> 地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動するとともに、安全・安心なまちづくりを目指すことができるようにする。</p>	<p><b>スマートフォン等使用時の安全</b> スマートフォン等を使用するときの危険、SNSに関するトラブルやサイバー犯罪について理解し、安全に利用できるようにする。</p>	<p><b>生命（いのち）の安全教育</b> 生命を大切にすることを理解し、性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないようにする。</p>

## 研究発表会 令和6年2月22日（木）

13時 受付開始 13時25分 授業公開（全学年公開） 14時30分 研究発表・講演会  
講演 NPO 法人日本こどもの安全教育総合研究所

理事長 宮田 美恵子 先生

多摩モノレール桜街道駅 徒歩10分

## 東京学芸大学との出会いから副校長として

中央区立久松小学校 副校長 森 口 美 佳

雪の積もる東京を目指し、新幹線に乗り、合格発表を見に行ったあの日。バス停から、正門前の掲示板までザクザクと歩いた雪道。上京する日の父の悲しそうな見送り。親友との堅い約束。買い物途中の母の背中を見てこつそり涙した武蔵小金井駅。そうしてスタートした大学生活。大学院、教職大学院派遣研修を含め、七年間もお世話になりました。楽しい学びの日々でした。今では教育現場での日々が長くなりました。どこに勤めても、先輩方はいつも頼りになる存在です。同窓会のつながりは温かく、安心感のあるものです。いつしか後輩が増え、その活躍を副校長として嬉しく思う日々です。

学校経営方針を確認しながら、二人の副校長で力を合わせて学校運営を支えています。校長先生から、教職員が気持ちよく動けるよう、いつ、どの場面でも、どんなタイミングで、どのよう何を伝えるのか、具体的に教わることで多く、副校長として、組織をどう動かすかを常に考え、段取りを大事にするようにしています。

「事件は現場で起きています。」というある映画の中の名台詞があります。学

校規模に関わらず、現場はまさに問題解決の連続です。短時間で状況を把握し、最善の決断をしていく、その場は、副校長に任されています。時には何件も並行して対応を進めます。組織として動き、問題解決へと向かえば、「これで児童も保護者も、教職員も安心だ。」となりますが、解決までに時間を要することもあり、粘り強く進めねばならないこともあります。ですから、「副校長先生。」と子どもたちや教職員、保護者から声を掛けられると、ドキドキしながら「はい、どうしましたか。」と答えると同時に、どんな問題なのか、どうやって解決できそうなのか考え、ワクワクもしています。正解のない問題を見付け、見通しをもつために校内をよく見て回ります。声を掛けられるより先に、「現場」を見て、自分から声を掛けるよう努めています。

教育現場は教員のなり手不足という時代です。私が大学正門の掲示板を見た日、副校長である自分の姿を想像させませんでした。様々なご縁から、今ここにいることに感謝し、一人一人の置かれた状況を把握しながら、後継の育成につなげて参ります。

## 副校長は、職員室の担任！

国立市立国立第八小学校 副校長 鈴木 淳

赴任した学校の校長から、最初に言われたことは、「職員室の担任は、副校長だからね。」この言葉でした。

副校長としての仕事は、まだまだこれからでしたが、この言葉を受けて、それなら自分ができそうなこともありそうだと思います。担任をしていた頃の学級経営を思い出しました。上から押し付けていたのでは、子供たちはついてきません。子供たち自身が主体的に考え、担任の力を借りながらも、あたかも自分が考えて自分の学級を回しているかのように思えてきたとき、自己肯定感が高まり、よい意味での想定外の力をも発揮することができました。職員室の教職員にも、同じように関わり、「自分がいないと学校は回らないから」と自己有用感をもつぐらいに、教師集団として育ててほしいと思いました。

学級経営の中で、班長に三つのことを示していたことも思い出しました。「自分が頑張ること」「班員を守り抜くこと」「仕事を分けること」です。職員室での班長は、主幹教諭や主任教諭などリーダーの教員に当たるかと思えます。三つの心構えを職員向けにし、

リーダーに、「あなたが頑張っていることや振る舞いは必ず他の先生が見ているよ。手本となってるね。」「若手の話をよく聞いて、寄り添ってあげてね。」と投げかけています。そして、「仕事や役割を分け与え、承認し、認めてあげること」をしてもらっています。人材育成につながっています。

そして、「若手が育っているね。」「いい学年経営しているね。」「部会の提案がよく考えられているね。」などとリーダーに伝えていきます。組織的な運営へとつながっています。

一番心がけているのは、「自分が考えて自分の学校を回している。自分がいないと学校が回らない」くらいの感覚をもって、学校経営に参画してもらうことです。学校の課題について明確に意識させること、それに対し解決策を考えさせること、仕組みで学校を動かすこと、その中で、改善すべきことや新たな取組が生まれてきたら、大いに称賛することが大切です。

主体的な教師の下でしか主体的な子供は育たないといえます。主体的に考える集団の下、きつと計り知れないくらい育った姿が見えてくるはずですよ。



## 教師として成長するために大切なこと

渋谷区立富谷小学校 鈴木裕二

私は、東京学芸大学初等教育教員養成課程理科選修に在籍していました。元々は人前で話すことは苦手で、できるだけ目立ちたくないと考えていました。現在の自分のモットーにしていることは「あきらめない。」「挑戦する。」「の二つです。このように大幅に考え方が変わる契機となったのが、大学時代と教員生活二年目の出来事でした。

私の考え方がつながっています。

もう一つの出来事は、教員生活二年目に、校内研究の授業者になったことです。自信のなかった私は、授業者を避けてきましたが、この時の分科会には、初任のときの学年主任と指導教諭の先生がいました。授業力に悩んでいた私は、ここで授業をするということ、自分にとって大きな勉強の機会になるのではないかと考えました。思い切って授業者に立候補しました。分科会の中で、先生方から、授業づくりの視点をご指導いただきました。研究授業を終えると、成果と課題がはっきりと自分の中に残り、その後の授業力向上に向けて目標ができました。挑戦したことで、今まで見えなかったことが見えてくることの素晴らしさを実感しました。

このような経験を通して、現在は東京都小学校理科教育研究会や東京教師道場で研鑽を続けています。「あきらめない。」「挑戦する。」ことは、新たな発見と出会いのきっかけとなり、自分の資質を伸ばすことになると思えます。継続することで、これからも児童によりよい教育をしていきます。

## 出会いと経験を大切に…

武蔵村山市立第八小学校 越田美咲

私が小学校の教員を目指そうと思ったきっかけは、小学五・六年生の時の恩師との出会いである。一人一人と真面目な向き合い、必ず成長につながる言葉をかけてくれた恩師のような教員になりたいと思い、東京学芸大学を目指した。初等教育教員養成課程学校教育選修に在籍していた四年間は、大切な友達と講義を受けたり、サークルでの交流を深めたりと充実した日々であった。サークルでは代表をやらせていただき、運営の仕方やチームをまとめることの大切さを経験することができた。また、教育実習では、教材研究の奥深さや、授業の他にも学級経営や校務分掌などについて指導教官を始め、たくさん先生方に御教授いただいた。

その翌年、初任者教員として現在の学校に着任し、三年次まで特別支援教室の担任として勤務した。特別支援教室の授業イメージが全くできていなかったため、学級担任とのギャップに戸惑う日々であった。教室主任は通級する児童の特徴を教えてくださいました。授業の流れをルーティン化したりと授業がスムーズに進むよう工夫してくださいました。次第に私も児童一人一人の特性に合う教材や授業展開を考えることが楽しく思えるようになった。

四年次からは学級担任として一年生と四年生の担任をさせていただいた。学年主任を始め、授業を見に来てくださる先生方からもアドバイスをいただきながら、元気な子供たちと楽しい毎日過ごしている。その中で自分が意識していることは、児童一人一人と向き合いながら、その子に合った指導や支援の方法は何かを常に考えていくことである。そして、それはこれまでの経験があるからだと感じている。私を支えてくださったたくさんの先生方に感謝しつつ、自分もいつか同じように支えることができるような教員を目指していききたい。

令和六年 新年祝賀会

総務部長 青山 直志

十一月十日(金) 第三回支部長会を東京ガーデンパレスで対面とオンラインの併用で開催いたしました。そして、実に四年ぶりに支部長の皆様を慰労する懇親会も併せて行うことが出来ました。用意されたのは新年祝賀会でお出しするビュッフェ「宴会プラン」です。会費はいただきず、試食として本部会計からお支払いしました。

さて、そこで説明させていただいたのは新年祝賀会についてです。令和五年は「高千穂の間」において、着座にて九十名規模で開催いたしました。令和六年は同じく「高千穂の間」で立食形式、百五十名規模の祝賀会を開催する予定であること、日程は令和六年一月二十一日(日) 正午から午後二時まで、各支部から五名以内でお申し込みいただき、こちらは会費八千円を事前振込にていただくこと等です。

コロナ禍が明けたものの、夏過ぎから季節外れのインフルエンザが流行して、現役の先生方には宴席への出席を躊躇されることもあるかと思えます。しかしながら、学大同窓会の横の繋がりと東京学芸大学との縦の繋がりが切れることがないよう継続していくことが大切であると感じています。

そして、さらに令和七年の新年祝賀会はコロナ禍以前のように、「高千穂の間」と「天空の間」に多くの同窓生が集い、縦と横の繋がりを強く意識できる良き空間となればと考えています。

会費納入のお願い

会計部長 關口 泰正

日頃より会計部の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

会計部では九月までの収支を中間決算としてまとめました。

九月末で正会員費は四百三十三名の方から、賛助会員費は百四十六名の方から、終身会員は三名の方から納入がありました。また事業収益として、獅子の代金が六百七十二冊分、納入されました。納入していただいた支部の支部長の皆様、会計担当の皆様には御礼申し上げます。

支出としては、公益事業として主に広報誌「學藝」の発行、獅子・子獅子の発行、ホームページのサイト運営費等の費用がありました。

コロナ禍を乗り越え、支部の集まりも少しずつ実施できていることと思えます。会費の納入につきましても、各支部で進めていただき、早めの納入への御協力をお願いいたします。

皆様の会費が充実した研修会や講演会、会員同士の親睦を深める機会などの活動へとつながります。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

研修部活動報告

研修部長 清水 淳

研修部の事業について、概要と今後の予定について報告いたします。

◆面接研修会について

九月十日、新宿区立市谷小学校において受講生二十八名を迎えて実施いたしました。森理事長の講演から始まり、午前・午後の二回、無事に面接研修を実施することができました。応援に二十五名の校長先生方が参加してくれたことに心より感謝申し上げます。受講生の内訳は校長選考二十三名(小学校二十名、中学校三名) A選考一名、B選考四名でした。一人でも多くの合格者が出ることを期待しております。

◆論文研修会(主任選考)について

今年度から、主任教諭選考受験者を対象とした論文研修を実施します。令和六年二月三日に全体講演及び指導者と受講者の顔合せを行い、二月中に二回の添削を上限に論文指導をします。獅子第四十四集の表紙裏のQRコードから申し込みます。参加費は会員・会員外共に三〇〇〇円です。主任教諭選考を考えている教諭の方々にお声かけください。

◆「獅子」の編集・送付

獅子第四十五集の編集作業に取り組み始めました。新しい情報なども加え、令和六年三月中旬には、各支部長先生に配布数を確認した後、所属校宛に送付いたします。ご期待ください。

名簿の訂正と次年度の準備について

調査部長 藤山 由仁

皆様の御協力のおかげをもちまして、十月に「令和五年度管理職等名簿」が完成し、学芸大学同窓会ホームページ上にPDFで掲載することができました。いつも調査部に大きな御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今後、訂正・変更等の情報がありましたら、調査部長までお知らせください。随時最新の物に名簿を修正していきます。

今後の作業ですが、来年三月に、各支部長に最新の支部の名簿をメールで送信する予定です。令和六年度の「管理職等名簿」を作成する際、これを修正して御提出いただければ、作業も容易になると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

また、支部長の皆様にご利用したいのは、終身会員の名簿の確認・点検です。誠に申し上げにくいのですが、昭和二十八年卒業以前の皆様は、御高齢で物故者や御逝去、御不明の方もおられます。「その他」の欄に御逝去の年を記載し、次の年にはお名前を名簿から割愛していく作業が必要になります。

終身会員の登録の仕方は、希望者が支部長から申込書を受取り、御自身で手続きをする流れになっています。詳しくは管理職名簿の巻末に掲載してございます。また、終身会員への名簿の連絡は各支部が行うこととなっております。名簿を御希望の終身会員の方は所属支部に連絡を取り御相談ください。

読みたくなる「學藝」を目指して

広報部長 加納 一好

広報部は年三回の「學藝」の発行とホームページの運営を行っています。「學藝」は、同窓生同士、同窓会と同窓生、大学と同窓生のつながりを大切に作成しています。

今号は支部紹介、研究発表会案内、副校長と若手の活躍が中心です。作成にあたっては各支部から多大なるご協力をいただきました。深く感謝いたします。研究発表会も対面での開催ができるようになりました。ぜひお出かけください。

「學藝」では、昨年度から大学と同窓生のつながりの強化に努めています。

今号は、私たち皆の思い出に残る小金井祭を紹介しています。小金井祭は昨年三年ぶりに大学を会場に開催され、今年は食品販売ができるようになり、多くの模擬店でにぎわいました。ただし、お酒の販売はありませんでした。

ホームページは即時性を大切にして、様々な情報を迅速に会員の皆様にご提供できるようになりました。載せてほしい情報がありましたら、遠慮なくお知らせください。

発行が待ち遠しい「學藝」、毎日チェックしたくなるホームページを目指します。

【お知らせ】

副理事長の担当支部は次の通りです。支部総会等の担当になります。

◎副理事長の担当支部

稲葉孝之副理事長

- 中野、杉並、練馬、昭島、町田、
- 狛江、多摩、羽村、あきる野、奥多摩、学芸大(十一地区)

渡辺裕之副理事長

- 千代田、中央、大田、渋谷、足立、
- 葛飾、府中、日野、東久留米、西東京、瑞穂、都庁(十二地区)

茅原直樹副理事長

- 豊島、北、荒川、江戸川、青梅、
- 小平、東村山、国分寺、福生、清瀬、高等学校(十一地区)

貝原俊明副理事長

- 文京、台東、墨田、江東、品川、
- 八王子、立川、三鷹、調布、国立、
- 檜原、特別支援学校(十二地区)

小川 優副理事長

- 港、新宿、目黒、世田谷、板橋、
- 武蔵野、小金井、東大和、武蔵村山、稲城、日の出、島嶼(十二地区)

〈令和五年度

新年祝賀会について〉

・日時

令和六年一月二十一日(日)

正午～午後二時

・会場

東京ガーデンパレス

文京区湯島一七―五

・会費

八千円

・内容

情報交換と懇親

各支部五名以内

立食形式で行います。

詳細はホームページの案内をご覧ください。

なお、参加申し込みは十二月で終了しております。

表紙の写真は第三回支部長会の様子です。ハイブリッド化が進み、多くの支部長の皆様にリモートでご参加いただきました。その後の祝賀会の試食会も久しぶりです。検食と支部長の慰労を兼ねています。

裏表紙は小金井祭の様子です。四年ぶりの食品販売ということでした。親の模擬店が出て賑わっていました。親子連れが多く、学生たちが子供たちを楽しませている姿に教員養成系の大学のイベントらしさを感じました。ウツドデッキは子供の遊び場です。あの「むぎのこ」は健在でした。小金井祭に行くことを楽しみにしている家庭もあるとのことで、地域とのつながりを強く感じました。

(広報部長 加納 一好)

学 藝 第一四九号

発行 令和五年十二月

東京学芸大学同窓会理事長

森 富子

東京都文京区小石川四の二の二十  
電話〇三(三三八一)七二五二(代)

URL <http://www.o-gakugei.org>

印刷 日本ハイコム株式会社

東京都文京区関口一の十九の二  
電話〇三(三三三五)四四四一

◇ 編集後記 ◇

「學藝一四九号」の作成に際しては支部紹介に六支部、研究発表会のお知らせに四支部、若手と副校長の活躍に四支部と、多くの支部の皆様のご協力をいただきました。ありがとうございました。



# 我らのキャンパス

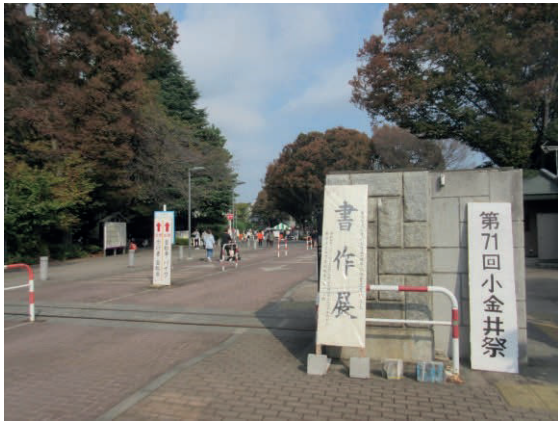
## ～ 第71回 小金井祭 ～

11月3日（金）から5日（日）までの3日間、小金井祭が開催されました。今年は4年ぶりに食品販売が復活し、いろいろな模擬店が賑やかに並んでいました。

今年のテーマは「Hello Again」。「コロナ前と全く変わらない、笑顔いっぱいの皆さんの顔よ、戻ってこい！」という願いが込められています。

模擬店だけでなく、ステージ、教室、ウッドデッキなどでのイベントは、どこも小さな子供を連れた親子連れで賑わっていました。笑顔がっぴいで、教員養成系大学らしい大学祭でした。

また、小金井祭に合わせるように創基150周年を記念した企画展示「東京学芸大学150年の歩み」が図書館で開催されていました。



正門



ウッドデッキ



模擬店



小ステージ



創基150周年記念企画展示